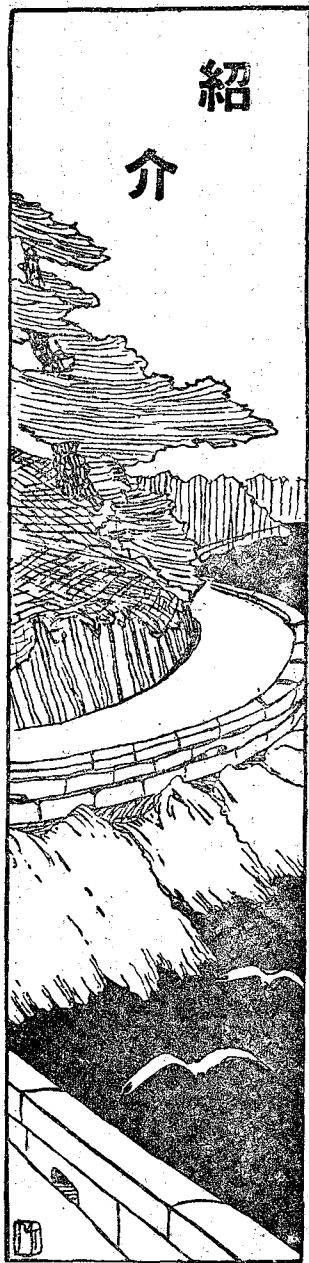


紹

介



福岡縣
に於ける

縣營碎石事業

〇三〇

坂本一平

配給區域

一般生産品に對抗し、縣營(今宿)による碎石を供給し得る勢力範圍は、別圖に示す通りにして、甲區域は市場に競争品なく、品質價格等全く他品の追従を許さざる、所謂獨占區域にして、乙區域は現場著價格稍高價なれども、品質

に於て地方産に比し、遙に優り、路面の耐久上或は一時に多量を要する場合、使用するを得策とする地方を示したるものにして、丙は未配給區域なれども、其の大半は、甘木、光友の兩碎石作業所(縣營)の獨占區域に屬す。而してこれを過般道路改良會に於て、主催せられたる交通調査の結果と對照するに交通量最多く、從て人口稠密なる地域に最多

量を供給しつゝあることが判る。最近に於ける區域別配給量は左の如し。

| 區域 | 面積 | 配給量 | 縣工事砂利碎石使用總量 | 使用量ニ對スル配給率 | 備考 |
|----------|------------------|----------------------|----------------------|------------|-------------------|
| 甲 (無競域爭) | 五七 ^{方里} | 一五、〇〇〇 ^{立米} | 一五、〇〇〇 ^{立米} | 一〇〇% | |
| 乙 (競域爭) | 一五三 | 一五、〇〇〇 | 三〇、〇〇〇 | 五〇 | |
| 丙 (未配給域) | 一一〇 | 六六〇〇 | 一五、〇〇〇 | 四四 | 今宿以外ノ碎石作業所ノ配給量ヲ掲ク |
| 計 | 三三〇 | 三六、六〇〇 | 六〇、〇〇〇 | 六一 | |

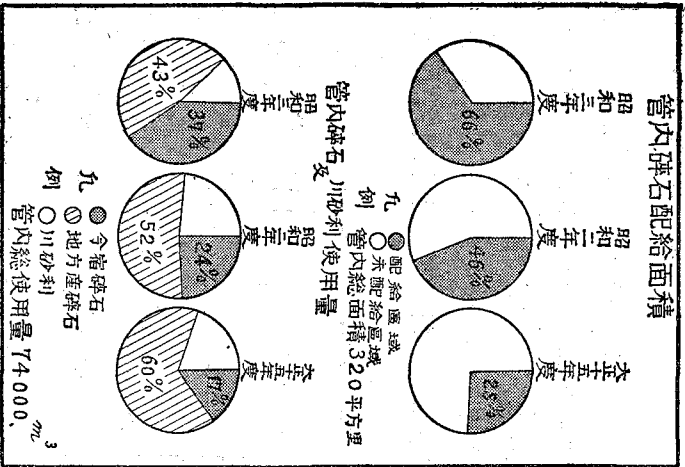
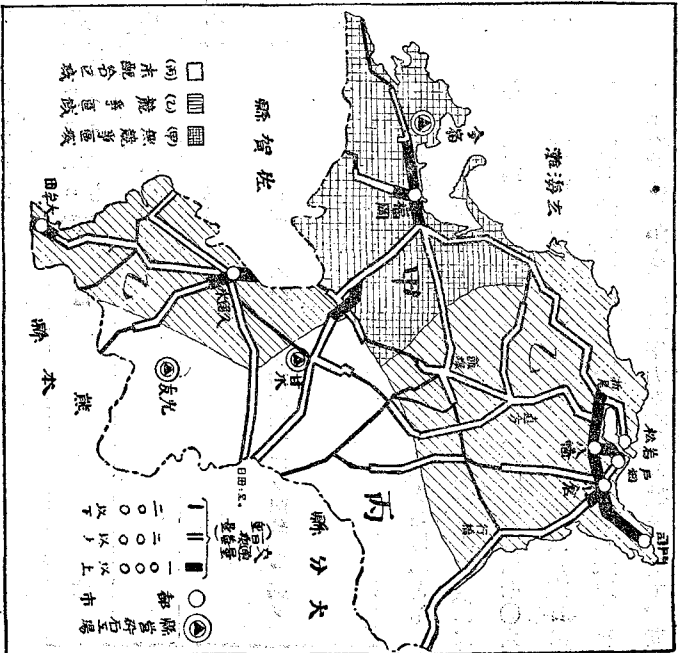
別表は主に、路面補修工用の碎石にして、今後國道、重要府縣道の、改築工事進捗するに伴ひ、路面基礎工事用としての、所要數量激増と、鐵道引込線の完成に因る配給區域の充實と擴張とを豫想せらるゝに付、今後は年々約六萬四千八百立米を製産せしむる計畫である。

能率増進の對策

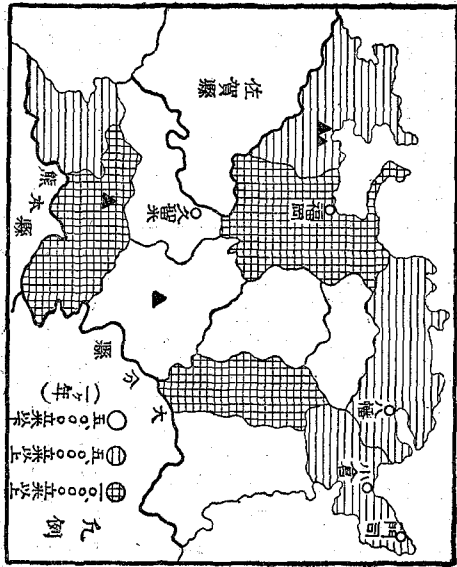
機械の故障は一般に不可抗力の如く看做され、操縦者の

技術の如何を、餘り考慮しない傾きがあるけれども、之れは寧ろ反對である。創業當時たる大正十五年度に於ては、製品高九、四四二立米に對し、昭和二年度は一三、七〇九立米同三年度は、一七、七二二立米、四年度は、二月末日に於て二九、四七九立米に達し、優に三三、〇〇〇立米以上を算する見込であるから、同一能力を有する機械に於て、斯の如く二倍乃至三倍の能率増進の實績を擧げたるは、別に機械に對し改良裝置を施したのではなく、操縦者の訓練に意を

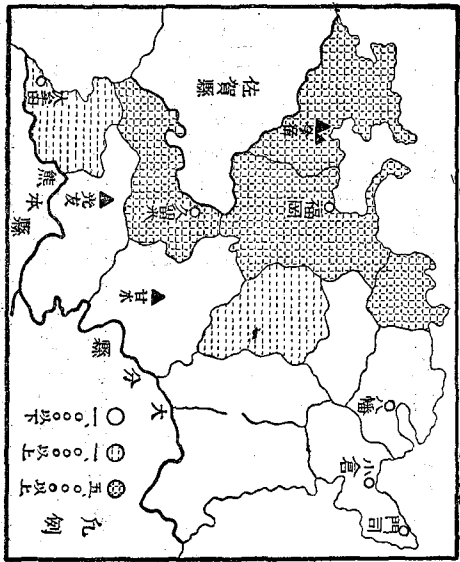
今宿 碎石 配給 區域 圖



福岡縣管内道路用砂利使用密度圖

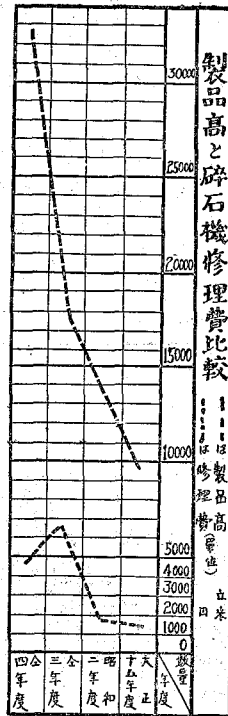


福岡縣管内今省碎石配給密度圖



須ひたるに外ならない。凡そ機械の修繕費は年々増加するのが常態であるにも拘らず、左表に比較せる如く、反て修理費を減じて生産率を高めてゐるのは、機械なるものゝ如何に操縦者の手腕と愛護との觀念によつて、固有の能力を發揮し得るかを如實に物語つてゐる。向後も此の方針により、機械に對し常に細心の注意を、傾注せしむると共に、

定時間内に、よりよき成績を擧げしむるには、各地の礦業地に於て行はるゝ、分業制度に依るの外なく、人夫中勞働能力の旺なる、熟練者にして思想堅實なる者は之れを工夫に採用し、勞銀の仕拂は月給制度として作業の先導者たらしめ、又成績優良なる人夫に對しては、賃金の増額を爲すことは勿論であるが、直營事業共通の缺陷たる、劃一的



機械に關する知識を涵養せしめ、故障に起因する運轉休止と云ふ、最も嫌忌すべき事故を未然に防止したいと思ふ。以上の機械力には限度があり、これを保持するには、二三の操縦者の訓練を以て目的を達し得るが、生産費の多額を蠶食する、人力は各其の勞働能力に相違がある爲め、一

な時間主義による能率の減退を防止する爲め、作業の量に依りて賃金を決定する方法を加味し、一面には、之れが獎勵の意味に於て、賞與として休暇を與へることを試みたが、將來は理想的な工程拂の方法を實施すべく具體案を考案中である。